

令和元年度 大野南地区まちづくりを考える懇談会結果報告

- 1 日 時 令和元年11月8日(金)午後7時から午後8時40分まで
- 2 場 所 南区合同庁舎3階 講堂
- 3 市側出席者 本村市長、森副市長、長谷川南区長、石井企画財政局理事、岩本経済部長、奈良まちづくり事業部長、阿部南区副区長
樋口市民局長、高梨市民局次長
- 4 出席委員等 33人
- 5 傍聴者 13人
- 6 懇談会の要旨

テーマ1	相模大野駅周辺の今後のまちづくりについて
概要	<p>当大野南地区の相模大野駅周辺は、「風格のあるまちづくり」をキーワードに商業施設や高層住宅、文教施設などの多様な機能を集積し、市の南の玄関口にふさわしいまちづくりを進めている。</p> <p>平成30年度のまちづくり懇談会では、当時の副市長から「相模大野の商業地づくりあるいはまちづくりをやっていく中で三核構造は維持する。」、「商業の核、歩行者動線の確保をしっかりとっていききたいので市を信じていただきたい。」との力強い御決意を聞かせていただいた。</p> <p>本年9月末をもって伊勢丹相模原店は閉店し、三核構造の一角が弱まってしまったが、今後も中心市街地としての都市機能を維持していかなければならない。</p> <p>このようなことから当地区では、相模大野駅周辺の今後のまちづくりについて懇談したい。</p>
地区の取組状況等	<p>昨年度作成した「次期総合計画・都市計画マスタープラン 大野南地区まちづくり会議報告書(平成30年9月)」で示した主な課題は以下のとおりである。</p> <p>コリドー街は、路面を歩きやすい舗装に整備する、通路に屋根を設置する等、より回遊性を高めるためのリニューアルが必要と考える。</p> <p>相模大野中央公園は、街のにぎわいづくりの核としての役割が求められており、よりにぎわいをつくる取組を進めるとともに相模大野駅から人が流れる仕組みが必要と考える。</p> <p>相模大野駅から相模女子大グリーンホール及び相模大野中央公園までの歩行者動線の確保は絶対であり、そのためには市にも覚悟を決めてもらいたいと考える。</p>
市の取組状況等	<p>市の現状・経過・取組状況については、伊勢丹相模原店閉店後の土地利用について、株式会社三越伊勢丹ホールディングスに対し、歩行者動線の維持や商業・サービス業を中心とした施設設置の要望・協議を行っている。</p> <p>また、本年8月に、「世代を超えて住む人・来る人に愛される持続可能なまちづくり」を目標とし、庁内に相模大野駅周辺のまちづくりを推進するための組織を立ち上げた。</p> <p>現在、株式会社三越伊勢丹ホールディングスは野村不動産株式会社を優先交渉権者としている。今後、仮に跡地が売却されることとなった場合は、新たな所有者に対しても歩行者動線の維持や商業・サービス業を中心とした施設設置の要</p>

	<p>望・協議を行っていく。</p> <p>推進組織において地域の課題を洗い出し、対応の方向性を整理したうえで、上記の目標に向けて、地域とともにまちづくりに取り組んでいく。</p> <p style="text-align: right;">（都市建設局）</p>
--	--

懇談内容	
地区の発言	<p>8月に立ち上げられた組織とはどのようなものなのか。具体的な検討内容を伺う。</p>
市の発言	<p>8月23日、にぎわいの再生、更なるにぎわいの創出を目的として都市建設局長を座長とし、環境経済局長及び南区長を副座長とする局長級の「相模大野まちづくり推進会議」を立ち上げた。その下に部長・課長級の「調整会議」、担当者級による「ワーキンググループ」を設置し、3層構造としている。</p> <p>伊勢丹相模原店跡地周辺には文教施設やメディカルセンターなどの施設があり、ソフト・ハードの両面から検討できるよう、全ての部署が関わり情報共有をすることで、どこに問い合わせても対応できるようにしている。</p> <p>具体的には、伊勢丹相模原店跡地利用についての課題や将来像について意見を出し合っている他、敷地内通路の迂回路が今後使えなくなった場合への対応、グリーンホールやメディカルセンター等の公共施設を面的に捉え、一体的なまちづくりについて考えている。また、市営立体駐車場の活用についても検討している。（都市建設局）</p>
地区の発言	<p>伊勢丹相模原店跡地が野村不動産株式会社に売却された場合、野村不動産株式会社による開発と市の施設の開発とがあると思う。</p> <p>伊勢丹相模原店の閉店から時間を置くと寂れてしまう。スピード感を持って当たってほしい。市営立体駐車場の活用等に関しては、大胆な発想が必要と考えるが、そのためのプロジェクトを立ちあげることが可能か。また、財源も必要となるが、実現のための覚悟はあるのか。</p>
地区の発言	<p>次の施設ができるまでの暫定迂回路、これだけは絶対に必要なもので、最低限確保を要望して欲しい。相模大野駅北口からの歩行者動線の確保と、商業施設の建設という市の決意を誰が売却先になっても要求していくべきである。</p> <p>個人的には市営立体駐車場を売却することで財源を確保し、一体的に開発させれば、地域の要望である通路も作りやすくなるのではないかと考える。</p>
地区の発言	<p>一度民間に売ってしまうと、次に民間同士の取引となってしまった場合にどうなるか分からない。</p>
市の発言	<p>伊勢丹相模原店跡地の周りには行政機能も集約している。相模大野中央公園も、特に相模女子大グリーンホールは、1,700人規模の集客施設であり、まちづくりにおいて付加価値がある。</p> <p>市営立体駐車場は、1階の使い勝手もさらに工夫する必要があるなど、伊勢丹相模原店跡地だけではなく、全体的な広がりの中でまちづくりを考えていく必要がある。その中で、お金のかかるもの、お金はかからないが知恵が必要になるものがあり、推進会議等で職員の知恵を出し、地域の皆様のご意見を頂きながら、庁内一丸となって取り組んでいきたい。（都市建設局）</p>

地区の発言	<p>いろいろな工夫も必要だが、大きい事業、プロジェクトを実現はできるのか。実際若い人は住んでいながら他の魅力あるまちに行ってしまう。そういう魅力あるまちにしてほしい。</p>
市の発言	<p>そういう意味ではまさに、来る人、住む人に愛されるまちにしたいと考えている。相模大野は、市内の市街地の中でも壮大さがある。</p> <p>10月27日に相模大野中央公園を中心にハロウィンフェスティバルが実施されたが、家族連れが絶え間なく訪れ、事業を行って集客するという手ごたえを感じている。(都市建設局)</p>
地区の発言	<p>これまでになかったまちづくりが必要。地方に比べ、相模大野はポテンシャルがあると思う。しかし、若い人達は具体的には海老名など、子育て世代が楽しむような場所へ行ってしまふ。これからのまちというのは、買い物だけではなく楽しんでもらうまちである必要がある。一体的な開発にあたっては、グランベリーパークなどのコンセプトを参考にする等、民間の大型商業施設を運営しているような企業に知恵を借りてみてはどうか。</p>
市の発言	<p>伊勢丹相模原店跡地の利用は民間事業ベースであり、短いスパンの中で市も対応しないといけない。もう少し中期的なことの中で取り組んでいくこともあり、先を見据えた対応も必要である。いずれにせよ、まず相模大野をどのようなまちにしたいかといったビジョンが必要である。</p> <p>その中では、相模大野らしい個性を生かし、これまでの有形無形の財産をどう生かしていくかが鍵になる。(南区役所)</p>
地区の発言	<p>いざとなった時に予算を取ってくる覚悟はあるのか。また、そのための機動性はあるのか。上限を決めないで取り組んでいただきたい。</p> <p>商店街のイベントでも、スポンサー協力頂く企業に対し、制約ばかり課してはうまくいかないの、商業地の活性化のためある程度例外的な措置を認めることも必要ではないか。</p> <p>コリドー通りに屋根を設置することや相模大野中央公園のリニューアルなどの、要望の実現にも財源が必要であるが、是非実現できるように進めて欲しい。</p>
市の発言	<p>相模大野中央公園やコリドー通りのリニューアルについては、地域の要望を踏まえて、総合的に検討していきたい。商店街のイベントについては、規制はあるが、法律に違反しない範囲であれば支援していきたい。例えば小中学生の発表の場とするなど、工夫したい。</p> <p>上限を設けずに財源を確保することについては、この場で回答しかねる。 (都市建設局)</p>
地区の発言	<p>商業的な話のみでよいのか。風格のあるまちづくりという考えは生きているはず。文教的なこと、住みやすさ等、意見すると相反するもののように見えるが、総合的に考える必要がある。</p> <p>これらの課題に対し、長期的・短期的に分かれたビジョンづくりをすべきであり、市がしっかりとコンセプトを持てば、民間はついてくると思う。</p>
地区の発言	<p>伊勢丹相模原店が9月30日に閉店し、10月1日に赤い羽根募金活動を行ったが、コリドー通りに全く人が通らない。まちを風化させないためにも、時期を区切って計画を早く立てて欲しい。</p> <p>若い人たちが良い意見をたくさん持っている。積極的に取り上げて欲しい。</p>

	<p>官と民が協力し、より良いまちをつくるために横断的に取り組んでいただきたい。</p>
地区の発言	<p>伊勢丹相模原店とグリーンホールは、一団地認定による同時開発であった。しかし、今度は伊勢丹相模原店跡地のみの開発であり、建物を解体する騒音でグリーンホールが営業できなくなるのではと危惧している。グリーンホールは、小さなエレベーターが1機あり、エスカレーターはない。相模大野図書館も階段が長く使い勝手が悪い。長く持続可能なまちづくりのためには、伊勢丹相模原店跡地周辺を一体的に考えることが必要と考える。</p> <p>推進会議等の中でも、そのような話が出ているようであれば、是非決断して進めていただきたい。</p>
地区の発言	<p>例えば伊勢丹相模原店跡地とグリーンホールの位置を入れ替えてみてはどうか。相模大野駅からグリーンホールまでがより近くなる。そのような柔軟な調整をしていただけないか。</p> <p>また、灰色の壁にプロジェクションマッピングでクリスマスツリーを映すなど、あのままにせず、何か工夫して頂けないか期待している。</p>
市の発言	<p>今はビジョンづくりについてはまだ白紙に近い状況である。伊勢丹相模原店跡地も売却先が決まっているわけではなく、地域の意見も頂戴しながら、南区長も入って考えている。</p> <p>グリーンホールも改修があるともないとも言えないが、売却先が決まれば、その業者ともそうした話をする場面が出てくると考える。（環境経済局）</p>
地区の発言	<p>グリーンホールはそのままがいい。風格は今も充分にある。グリーンホールはリニューアルもしている。市の厳しい財政を考えると、先ほど上限を決めないでとの意見もあったが、できる限りで、あまりお金をかけずソフト面を活かし、既存の価値あるものを残してもらった方がよい。</p> <p>もし、売却先が野村不動産株式会社に決まったならまちづくり会議として話し合いの場を持ちたい。</p>
地区の発言	<p>非常に憤慨している。伊勢丹相模原店の閉店が決まったのが昨年で、ワーキンググループが立ち上がったのは8月である。それまで何も動いていなかった、今後のまちづくりについて検討していなかったということは、非常に遅いと思う。</p> <p>なおかつ、ワーキンググループを作っても売却先が決まるまでの間白紙なのはおかしいと思う。相模大野駅周辺をどのようなまちづくりをしていくのか、市はどう考えていくのかが根本にあって、それに民間がどのようについてくるべきかといったイメージをもって取り組むべき。市長にもワーキンググループにぜひ入ってほしい。</p>
市の発言	<p>昨年横串を刺して庁内で議論していたが、組織として見えるようになったのが本年8月である。いろいろなアイデアをプラスしている段階で、まだ固まっていないという意味で、現在はまだ白紙であるとの意味で発言した。</p> <p>（環境経済局）</p>
地区の発言	<p>地域には自治会に入っていない若い子育て世代やPTAもいるが、なかなか意見の出ない世代である。しかし、地域づくりはみんなで行うものと思っているので、こうした方々からも意見を集約してほしい。</p>

<p>市長の感想等</p>	<p>相模大野は多様な価値のあるまちであると認識している。これまでの相模大野のまちがもともと持っているソフトとハードをどのように有効に使えるか考えていく必要がある。にぎわいの創出というソフト面を考える上で、ハード面についても併せて考えなければならない場合もあるということも認識している。例えば、相模大野中央公園をにぎわいづくりの一つとした場合に、このようにリニューアルがされたならもっとにぎわいが増えていくといった具合である。ソフトとハードを切り離して考えるのではなく、両輪として、多様な世代が行き交うまちにしていかなければならないと考えている。</p> <p>市と皆さんの思いは同じで、市がその思いをないがしろにすることは一切ない。住みやすいまちということも風格、商業、文化の核も、重ね合わせができるまちである。</p> <p>短期的に解決していかない問題もある。中期、長期に渡って持続可能なまちづくりを行っていく。もちろん今日の話し合いで終わるとは思っていない。売却先の企業から今後の提案があった際には、地域の皆様と一緒に情報共有しながら、意見交換をしたい。皆さんの意見も多様であり、どのような形で合意をつくっていくのか、皆さんの中でも考えて頂きたい部分がある。（副市長）</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>皆さんと相模大野、相模原市に対する思いは同じである。</p> <p>今回のテーマは、私が市長選に立候補した理由の一つでもある。就任後、株式会社三越伊勢丹ホールディングス関係者とは3回会い、森副市長も別に3回会っている。</p> <p>庁内では議論をしていたが、推進会議の設置が本年8月になったことについては、反省しているところ。</p> <p>現在、株式会社三越伊勢丹ホールディングスと協議をしており、野村不動産株式会社とは具体的な話をしていない。しかし、株式会社三越伊勢丹ホールディングスには非常に強く要望している。それだけ我々は相模大野のポテンシャルを信じている。</p> <p>この30年で、伊勢丹相模原店やグリーンホール、相模大野図書館などが商業や文化の核となって、商店街の皆様と、一緒になってまちを作っていこうというように方向性が変わっていった。</p> <p>商業と文化の核については、必ず守りたいと考えている。歩行者動線についても同様である。また、1階と3階の低層階の商業施設についても、強く要望している。</p> <p>売却先が野村不動産株式会社に決まった場合、解体から建設まで5～6年はかかると言われている。その間にぎわいをどのように作っていくかが課題であり、株式会社三越伊勢丹ホールディングスには、低層階の商業施設に伊勢丹ブランドを残していただくように強く要望している。にぎわいのある相模大野を作っていかなければならない。</p> <p>相模大野中央公園が一つのポイントになる。駅から雨にぬれずにコリドー通りを渡って、新しい施設の中を歩いて、相模大野中央公園まで行ける動線は確保しなければなりませんと考えている。</p>
---------------	--

	これからは行政もチャレンジしていかなければならない、気づいた点についてはおっしゃっていただきたい。（市長）
--	---